

令和 5 年 10 月 23 日現在

機関番号：34429

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19K00095

研究課題名(和文) 宗教的ニューカマーが構築する協調的あるいは対立的な社会関係の実証的研究

研究課題名(英文) The Positivist Study of Cooperative or Antagonistic Relationship that the Religious Newcomers Construct

研究代表者

三木 英 (MIKI, Hizuru)

大阪国際大学・公私立大学の部局等・教授

研究者番号：60199974

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：日本に暮らす外国出身者は増加傾向にあるが、同時に、日本人には不慣れな外国ルーツの宗教も国内に定着しつつある。本研究はそれら外来宗教、すなわちイスラーム・ベトナム仏教・スリランカ仏教・ブラジル系福音主義キリスト教を調査対象とし、それらを信じる在留外国人の社会に集団論・組織論的アプローチを試みたものである。

かつて外来の宗教がニューカマーたちに、扶助し合う場や種々の情報交換のための場を提供していたことは確かである。しかし在留外国人が増え、彼らの在日キャリアが長くなるにつれ、宗教は彼らのアイデンティティ形成にあたっての有力な存在になりつつある。こうした宗教の役割の変化を、本研究は見出したのである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

昨今の外国籍住民の増加は、日本社会に甚大な影響を及ぼす現実である。実際、このことは政治・経済・法・文化・福祉等々、様々な観点から論じられてきている。しかし外国籍住民をめぐる議論に、宗教を鍵概念としたものは全く乏しい。

ニューカマーたち(の多く)にとって宗教がいかに重要なものであるかを、世俗社会・日本の生きる人々は気づいていないのである。たとえば技能実習生として不可欠なインドネシア出身者の殆どは祈りを欠かさず、断食月には日中に飲食しないイスラーム教徒である。本研究は、看過されること甚だしい(ニューカマーの)宗教を取り上げており、学術的はもちろん社会的にも、意義の大きなものであることは間違いない。

研究成果の概要(英文)：In recent Japan, the number of the foreign residents is steadily increasing. Incidentally the foreign religions such as Islam, Vietnamese Buddhism, Sri Lanka Buddhism and Brazilian evangelical Christianity, all of which are unfamiliar to the most Japanese, are gradually taking their roots in the Japanese local societies. Our survey focuses on the social relationship among the followers of such newcomer religions, trying to do a sociological analysis. It is sure that the newcomer religions had functioned as the refugees for the foreign residents having not accustomed to the exotic societies and having some troubles. However, as the number of foreign residents increases and they have longer carriers in Japan, their religions are becoming more closely tied to their identity formation. that means the change of religious roles is occurring.

研究分野：宗教社会学

キーワード：イスラームむ 形成 墓地問題 ベトナム仏教 社会的交換 スリランカ仏教 日本人との接点 ブラジル系福音主義キリスト教 アイデンティティ

1. 研究開始当初の背景

本研究は、日本における在留外国人の増加という現象を新時代を画するものと認識し、社会の未来を読み解くための鍵を宗教と見て、現場密着型で遂行してきたものである。

在留外国人の増加は日本人にとって異文化との出会いという側面もあった。そしてその異文化に、彼ら外国籍の人々の宗教が有力なものとして含まれている。人間であれば文化なしで存立はあり得ず、文化を重んじることは当然である。そして外国出身者も自分たちの文化、なかんずく自分たちの宗教を大切に考え、日本への移住後も自身の宗教の信仰を続けている。だからこそ日本各地には、ニューカマーたちによる寺や教会あるいは礼拝所が開設されてきたのである。

彼らにとって宗教は、無宗教を標榜する人間が大多数を占める日本人にとって想像することができないほどに、重要なものである。その重要なものが現実にどれほど国内に増え、どれほどに信者の心身の疲れを癒し、信者たちの誇りを支えているのか、さらに日本移住から月日が経過することによってその大切なものの役割に変化が生じてきているならそれは何か、を明らかにすることは日本人・日本社会の未来を考えるにあたり欠かせないものである。

だからこそ本研究は計画され、実施された。本研究はいわば、時代に呼び出された研究であるといえるのである。

2. 研究の目的

在留外国人の奉じる宗教すなわちニューカマー宗教は、1990年における「出入国管理及び難民認定法」の改訂以降に顕著な増加傾向をしめすようになった。増加は現在も継続しており、いまや日本は日本人が気づかぬうちに宗教多元主義 religious pluralism 状況を呈するようになってきている。仏教・神道・キリスト教、そして(仏教・神道を母体に創唱された)新宗教の他に、イスラームやペンテコステ派キリスト教、台湾やベトナム・スリランカの仏教、フィリピンのキリスト教系新宗教等々、多様な宗教の展開が現代日本に見られるようになってきているのである。

そうした状況を日本人は知るべきであるに関わらず、ほとんどの日本人は知らず、気づかないままだ。この現実を広く日本社会に知らしめることを、本研究は目的としたのである。

さらに増加の端緒から30年以上を経た現在では、ニューカマー宗教にかつてとは異なる「何か」が生じつつあるのではないか。外国出身者が日本に定着し、30年も経てば、日本語・日本文化に慣れ、日本人との社会関係にも変化が生じているだろう。宗教にもおそらくは変化が生じてきている。それを把握することによって、ニューカマーたちの社会の変化にも社会学的考察を及ぼすことを、本研究は目的としたのである。

3. 研究の方法

多種多様なニューカマー宗教のなかから、イスラーム、ブラジル系福音主義教会、ベトナム仏教、スリランカ仏教をピックアップしてそれらの寺・教会の開設が続き信者たちの活動が活発であると評価したからである。マスジド・教会・寺にフィールドワークを行い、質的データの蓄積に努めた。インタビュー、儀礼の参与観察を中心に、何度もフィールドに足を運び、ニューカマーたちとのラポールを形成しての質的調査である。

同時に、移民を受け入れる先進国における宗教を論じた外国文献の学び、さらに移民研究者たちと意見を交換しつつ、調査を効率的に広範に、且つ先鋭的に行っていったのである。

また小さな研究会を開催し、あるいは既存研究会の定例会に参加して研究発表を行ってきたことも、研究成果の充実に貢献しているはずである。

4. 研究成果

研究成果は『日本社会定着後のニューカマーとその宗教』と題した報告書としてまとめた。A5サイズ全118頁にわたるものである。その内容を列挙すれば、「ブラジル系福音主義教会の日本での現状」「イスラームのマスジドのなかに見られた小集団的活動」「宗教機能以外の社会的機能をもつようになったベトナム仏教寺院」「自治体とイスラームの接点」「イスラームのための土葬墓地の日本での開設問題」「スリランカ仏教寺院に関与する日本人求道者」「ニューカマー宗教集団に対する集団論・組織論的分析」である。

報告書は既に、調査に協力してくれたインフォーマントの方々、本調査に関心を寄せてくれた研究者の方々、またメディア関係者にも送付し、一定の評価を得ている。なおこの報告書に加筆

修正して、書籍として刊行する計画が進んでいる。2024 年初夏が、予定刊行時期である。

本研究の成果として一つを挙げるなら、ニューカマー宗教が徐々に、当初はなかった側面を身につけつつあることを見出したことだろう。イスラームでは、その日本での信仰が「人権」と関わる重大なものとなろうとしており、ブラジル系福音主義教会では、信仰が「ブラジルらしさ」と結びついて先鋭的なエスニシティの相貌をその裏面に持つようになりつつある。そしてベトナム仏教では、寺が在日ベトナム人の文化継承の拠点となり、日々の学業・労働の疲れを解消する「広場」となりつつある。それらは宗教色を薄めつつあることと同義である。

「国際交流」は、こうした変化を知ったうえで行われるべきと考えれば、本研究の意義は大きいはずである。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 三木英
2. 発表標題 日本の目指すべき共生社会とムスリム
3. 学会等名 笹川平和財団『イスラムとの共生社会構築支援』事業・第一回研究会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 三木英
2. 発表標題 自治体におけるムスリム施策 自治体はムスリムとどのように付き合っているか
3. 学会等名 笹川平和財団『日本におけるムスリムとの共生 現状とこれから』ワークショップ（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 三木英
2. 発表標題 国内におけるニューカマー宗教の伸張とその影響
3. 学会等名 国際宗教同志会2019年度例会（招待講演）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	沼尻 正之 (Numajiri Masayuki) (10300302)	追手門学院大学・地域創造学部・教授 (34415)	削除：20217月30日

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	岡尾 将秀 (Okao Masahide) (90773672)	大阪市立大学・大学院文学研究科・都市文化研究センター研 究員 (24402)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関